

阿南工業高等専門学校					一般教科（平成25年度以前入学生）								開講年度				平成27年度（2015年度）											
学科到達目標																												
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分					
						1年				2年				3年				4年						5年				
						前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後							
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4					
一般	必修	英語 3	0022	履修単位	3									3	3										林田 栄治			
一般	必修	微分積分	0023	履修単位	4									4	4										川崎 敏和			
一般	必修	微分方程式	0024	履修単位	1									2											宮本 陽生			
一般	必修	数学C	0025	履修単位	1									2											山田 耕太郎			
一般	選択	日本史	0026	履修単位	2									2	2										碓川 正美			
一般	選択	体育	0027	履修単位	2									2	2										新井 修			
一般	選択	日本語総合	0028	履修単位	2									2	2										錦織 浩文			
一般	選択	政治社会	0029	履修単位	2									2	2										今田 浩之			
一般	選択	英会話英作文	0030	履修単位	2									2	2										小笠原 麻衣子			
一般	必修	英語総合 1	0031	学修単位	2														2						谷中 俊裕			
一般	選択	法学	0032	履修単位	2												2	2							今田 浩之			
一般	選択	哲学	0033	履修単位	2												2	2							藤居 岳人			
一般	選択	体育	0034	履修単位	1														2						新井 修			
一般	選択	化学 3	0035	学修単位	2														2									
一般	選択	英語の語彙・文法（1）	0036	履修単位	1												2								林田 栄治			
一般	選択	英語の語彙・文法（2）	0037	履修単位	1														2						勝藤 和子			
一般	選択	経済学	0038	学修単位	2																		2		今田 浩之			
一般	選択	バイオテクノロジー	0039	学修単位	2																		2		一森 勇人			
一般	選択	体育	0040	履修単位	1																2				新井 修			
一般	選択	英語総合 2	0041	学修単位	2															2					勝藤 和子			
一般	選択	日本語の表現	0042	学修単位	2															2					錦織 浩文			
一般	選択	英語の語彙・文法（3）	0043	履修単位	1															2					谷中 俊裕			
一般	選択	英語の語彙・文法（4）	0044	履修単位	1																	2			藤井 浩美			
一般	選択	中国語	0045	履修単位	1																	2			鄭 涛			

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	英語 3
科目基礎情報						
科目番号	0022		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	3		
教科書/教材	Pole Star 他/Reading Adventure 2					
担当教員	林田 栄治					
到達目標						
1. 300語～400語程度の英文を速読し大意を把握できるようにする。 2. 本文で使われている重要語句と語彙集で取り上げた語句を習得する。 3. 本文および文法参考書で取り上げた文法事項を理解する。 4. リスニング力の向上を図る。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句を、主な派生語も含め理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句をほぼ理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した語句に理解できないものが多く残っている。	
評価項目2	教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句を、主な派生語も含め理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句をほぼ理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した語句に理解できないものが多く残っている。	
評価項目3	教科書の読み物の英文で学んだ重要語句・重要文法事項を他の英文の理解にも応用できる。		教科書の読み物の英文を、パートごとに重要語句・重要文法事項を含めほぼ理解できた。		教科書の読み物の英文について、理解できないところが多く残っている。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要						
授業の進め方・方法		速読テクニックを意識しながら、300語～400語程度の英文の読解演習を行います。授業や予復習に際しては、ワークブック・補助プリントを併用し、本文に使われた語彙や文法事項を確認し、英語の総合的運動能力の向上を目指します。文法・構文力は、2年次から使用している文法参考書・ワークブックを併用して補強します。語彙力は、1年次から使用している語彙集も用いて補強します。リスニング演習、英語DVDの視聴も行います。				
注意点		1. 授業には必ず英和辞典（電子辞書可）を持参すること。 2. 教科書の語句・語彙集の語句について適宜小テスト、課題自習プリントを課す。 3. 自習課題としてe-learningを行う。 4. 提出物の提出期限は厳守すること。				
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		2週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		3週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		4週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		5週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		6週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		7週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		8週	Polestar Lesson1～4 Reading Adventures		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
	2ndQ	9週	前期中間試験			
		10週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		11週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		12週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		13週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		14週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		15週	Polestar Lesson5～7 Reading Adventures Unit4～5+Review2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	Polestar Lesson8～10 Reading Adventures Unit6～7+Review3		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。	
		2週	ListeningbText Unit1～10		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。	

		3週	Polestar Lesson8~10 Reading Adventures Unit6~7+Review3	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		4週	LListeningbText Unit1~10	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		5週	Polestar Lesson8~10 Reading Adventures Unit6~7+Review3	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		6週	LListeningbText Unit1~10	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		7週	Polestar Lesson8~10 Reading Adventures Unit6~7+Review3	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		8週	LListeningbText Unit1~10	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
	4thQ	9週	後期中間試験	
		10週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		11週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		12週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		13週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		14週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		15週	Polestar	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	15	15	10	100
基礎的能力	60	0	0	15	15	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	微分積分
科目基礎情報						
科目番号	0023		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	4		
教科書/教材	微分積分 改訂版、矢野健太郎編、裳華房/新課程チャート式数学Ⅲ 数研練習ドリル数学Ⅲ					
担当教員	川崎 敏和					
到達目標						
1. 関数の極限の意味を理解していろいろな関数の極限計算ができる。 2. 導関数の公式および種々の計算技法を習得して微分計算ができて接線や極値が求められる。 3. 基本的な関数の不定積分と定積分の計算ができて面積や長さ計算に応用できる。 4. 偏微分の基本的な計算ができて2変数関数の極値が求められる。 5. 重積分の基本的な計算ができて体積計算に応用できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	関数の極限の意味を理解していろいろな関数の極限計算が常時できる。		関数の極限の意味を理解していろいろな関数の極限計算ができる。		関数の極限計算ができない。	
到達目標2	導関数の公式および種々の計算技法を習得して微分計算が常時でき、接線や極値などを常時求められる。		導関数の公式および種々の計算技法を習得して微分計算ができ、接線や極値が求められる。		導関数の公式および種々の計算技法を習得せず、微分の計算やその応用ができない。	
到達目標3	積分の公式や置換積分など種々の計算技法を習得して積分計算が常時でき、面積などにも常時応用できる。		積分の公式や置換積分など種々の計算技法を習得して積分計算ができ、面積などに応用できる。		積分計算ができない。定積分を面積計算に応用できない。	
到達目標4	2次までの偏微分、合成関数の偏微分、陰関数の計算が常時でき、2変数関数の極致が求められる。		2次までの偏微分、合成関数の偏微分、陰関数の計算ができ、2変数関数の極致が求められる。		偏導関数が計算できない。偏導関数の応用ができない。	
到達目標5	累次積分が常時計算できる。重積分が常時計算できる。重積分を応用して体積計算などが常時できる。		累次積分や重積分の計算ができる。重積分を応用して体積計算などができる。		累次積分や誦積分の計算ができない。重積分が応用できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。本科目では極限、微分法および積分法についての理解を深め、関数の解析、図形の計量に応用できる知識と技能を習得する。また偏微分、重積分の基本的な考え方を理解し、計算力を養う。					
授業の進め方・方法						
注意点	1. 授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。予習復習が必須である。 2. 定期試験はもちろん重要であるが、平常の小テスト、提出物等での努力を怠らないこと。 3. 課題等提出物の提出期限を厳守すること。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	微分 数列の極限		いろいろな数列の極限を求めることができる（不定形の意味も理解している）。	
		2週	無限数列の和		基本的な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	
		3週	関数の極限		いろいろな数列の極限を求めることができ、ロピタルの定理も使える。	
		4週	微分の計算		三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。	
		5週	逆三角関数とその微分		逆三角関数を理解している。逆三角関数の導関数を求めることができる。	
		6週	微分の応用 増減、極値、グラフ種々の微分		関数の増減表がかけ、関数の極値を求め、グラフの概形をかくことができる。	
		7週	微分の応用 増減、極値、グラフ種々の微分		高次導関数の計算、媒介変数表示された関数の微分計算ができる。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	不定積分		分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分の計算ができる。	
		10週	不定積分		分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分の計算ができる。	
		11週	不定積分		分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分の計算ができる。	
		12週	不定積分		置換積分および部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。	
		13週	不定積分		置換積分および部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。	
		14週	不定積分		置換積分および部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。	
		15週	不定積分		置換積分および部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。	

		16週		
後期	3rdQ	1週	定積分 定積分の計算技法	置換積分および部分積分を用いて、定積分を求めることができる。
		2週	定積分 定積分の計算技法	置換積分および部分積分を用いて、定積分を求めることができる。
		3週	定積分 定積分の計算技法	分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の定積分の計算ができる。
		4週	定積分 定積分の計算技法	分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の定積分の計算ができる。
		5週	定積分の応用	基本的な曲線で囲まれた図形の面積、体積、曲線の長さを求めることができる。
		6週	定積分の応用	基本的な曲線で囲まれた図形の面積、体積、曲線の長さを求めることができる。
		7週	定積分の応用	基本的な曲線で囲まれた図形の面積、体積、曲線の長さを求めることができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	偏微分 種々の偏微分計算	2変数関数の定義域やグラフを理解し、高次偏微分まで計算できる。
		10週	偏微分 種々の偏微分計算	2変数関数の定義域やグラフを理解し、高次偏微分まで計算できる。
		11週	偏導関数の応用	偏導関数を用いて、基本的な2変数関数の極値を求めることができる。
		12週	国立高専学習到達度試験	
		13週	重積分 累次積分と重積分	2重積分の定義を理解し、2重積分を累次積分に変形し計算できる。
		14週	極座標変換	順序積分の変更や極座標変換して重積分の計算ができる。
		15週	重積分の応用	2重積分を用いて基本的な立体の体積を求めることができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	0	0	0	10	50	100
基礎的能力	40	0	0	0	10	50	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	微分方程式		
科目基礎情報								
科目番号	0024			科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)			対象学年	3			
開設期	後期			週時間数	2			
教科書/教材	微分積分 (裳華房)							
担当教員	宮本 陽生							
到達目標								
1.極座標表示と極方程式の基本的な計算ができる。 2.変数分離形・同次形・1階微分方程式など基本的な微分方程式の一般解を求めることができる。 3.定数係数2階線形微分方程式の一般解を求めることができる。 4.変数分離形・同次形・1階線形など基本的な微分方程式の特殊解を求めることができる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	極座標と直交座標を相互に変換ができ、極方程式と直交座標に関する方程式を相互に片kんできる。			極座標を直交座標に変換でき、極方程式を直交座標に関する方程式に変換できる。		極座標を直交座標に変換できない。		
到達目標2	与えられた微分方程式が変数分離形、同次形、1階線形化を判定でき、一般解を求めることができる。			変数分離形、同次形、1階線形方程式の一般解を求めることができる。		変数分離形方程式を、積分形に変換できないうえに定数変化法を理解できない。		
到達目標3	非斉次項が斉次方程式の一般解に含まれている場合にも特殊解を求めることができる。			斉次方程式の一般解を求めることができ、非斉次方程式の特殊解を求めることができる。		補助方程式を求めることができない。		
到達目標4				初期条件や境界条件を理解し、一般解から特殊解を求めることができる。		初期条件・境界条件を利用して特殊解を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では、最初に極座標と極方程式について学習し、その後、基本的な微分方程式の解法を習得し、計算力を養う。							
授業の進め方・方法								
注意点	授業に集中し効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 定期試験の勉強も重要であるが、平常の小テストの勉強、提出物なども努力を怠らないこと。 課題など提出物の期限は厳守すること。							
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	極座標		極座標の表し方を理解し、直交座標に変換でき、その逆もできる。			
		2週	極方程式		極方程式を理解し、直交座標に関する方程式に変換でき、その逆もできる。			
		3週	極方程式		極方程式を理解し、直交座標に関する方程式に変換でき、その逆もできる。			
		4週	微分方程式と解		微分方程式を理解し、与えられた関数が一般解か特殊解か判定できる。			
		5週	変数分離形微分方程式の解法		変数分離形微分方程式の一般解を求めることができる。			
		6週	変数分離形微分方程式の解法		変数分離形微分方程式の一般解を求めることができる。			
		7週	同次形微分方程式の解法		同次形微分方程式の一般解を求めることができる。			
		8週	【後期中間試験】					
	4thQ	9週	1階線形微分方程式の解法		定数変化法により1階線形微分方程式の一般解を求めることができる。			
		10週	1階線形微分方程式の解法		定数変化法により1階線形微分方程式の一般解を求めることができる。			
		11週	定数係数2階線形微分方程式の解法		斉次方程式を理解し、一般解を求めることができる。			
		12週	定数係数2階線形微分方程式の解法		斉次方程式を理解し、一般解を求めることができる。			
		13週			非斉次方程式を理解し、特殊解と一般解を求めることができる。			
		14週			非斉次方程式を理解し、特殊解と一般解を求めることができる。			
		15週			非斉次方程式を理解し、特殊解と一般解を求めることができる。			
		16週	【後期期末試験】 【答案返却】					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート・課題	合計
総合評価割合	90	0	0	0	5	0	5	100

基礎的能力	90	0	0	0	5	0	5	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	数学C		
科目基礎情報								
科目番号	0025			科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）			対象学年	3			
開設期	前期			週時間数	2			
教科書/教材	線形代数(裳華房)/							
担当教員	山田 耕太郎							
到達目標								
1.行列の和・差・積・実数倍・行列式の値の計算ができる。 2.掃き出し法や行列を用いて連立方程式を解くことができ、逆行列を求めることができる。 3.1次変換による簡単な図形の像・原像を求めることができる。 4.行列の固有値・固有ベクトルを求めて、対角化ができる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	行列式の性質を利用して行列式の値の計算ができる。			行列の和差積、および行列式の値の計算ができる。		4次の行列式の計算ができないし、行列の積も正確に計算できない。		
到達目標2	掃き出し法により、正方行列の正則性を判定できる。			掃き出し法や行列を用いて連立方程式を解くことができ、逆行列を求めることができる。		掃き出し法により逆行列を求めることができない。		
到達目標3	1次変換井よる簡単な図形の原像を求めることができる。			基礎的な1次変換を行列で表すことができ、1次変換による簡単な図形の像を求めることができる。		基礎的な1次変換を行列で表すことができない。		
到達目標4	正方行列の累乗を対角化を利用して計算することができる。			2次と3次の正方行列の固有値と固有ベクトルを求めることができ、それを用いて対角化できる。		2次正方行列の固有値と固有ベクトルを求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では、工学への応用で重要な役割を果たす行列と行列式の計算およびその応用を学習する。							
授業の進め方・方法								
注意点	授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。定期試験の勉強はもちろん重要であるが、平常の小テストの勉強、提出物なども努力を怠らないこと。課題など提出物は提出期限を厳守すること。							
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	行列式		2次・3次の行列式の値の計算ができる。			
		2週	行列式		行列式の展開を利用して4次の行列式の値の計算ができる。 行列式の性質を利用して行列式の値の計算ができる。			
		3週	行列		行列の和・差・積・実数倍の計算ができる。			
		4週	連立1次方程式・逆行列		2次正方行列の逆行列を求めることができる。			
		5週	連立1次方程式・逆行列		掃き出し法により連立1次方程式の解、3次正方行列の逆行列を求めることができる。			
		6週	連立1次方程式・逆行列		掃き出し法により連立1次方程式の解、3次正方行列の逆行列を求めることができる。			
		7週	前期中間試験					
		8週	1次変換		対称移動・回転など基本的な1次変換を行列で表すことができる。			
	2ndQ	9週	1次変換		1次変換の合成変換・逆変換を求めることができる。			
		10週	1次変換		直線など基本的な平面図形の、1次変換による像・原像を求めることができる。			
		11週	1次変換		2次・3次の正方行列の固有値・固有ベクトルを求めることができる。			
		12週	固有値と固有ベクトル		正方行列の固有値・固有ベクトルを用いて対角化できる。			
		13週	固有値と固有ベクトル		正方行列の累乗を対角化を利用して計算することができる。			
		14週	固有値と固有ベクトル		正方行列の累乗を対角化を利用して計算することができる。			
		15週	固有値と固有ベクトル		正方行列の累乗を対角化を利用して計算することができる。			
		16週	前期期末試験 答案返却					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	90	0	0	0	5	0	5	100
基礎的能力	90	0	0	0	5	0	5	100

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	日本史
科目基礎情報						
科目番号	0026			科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)			対象学年	3	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	高校日本史B (山川出版社) /写真資料集: 日本史のアーカイブ (とうほう)					
担当教員	甚川 正美					
到達目標						
1.古代から現代にいたる我が国の歴史の基礎的知識について説明できる。 2.過去のいろいろな出来事を歴史資料を通して明らかにし、時間の流れに即して因果関係を説明できる。 3.世界的視野に立って歴史の展開を考察することで、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身に付けられる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	古代から現代に至る我が国の歴史の基礎的知識について、詳細に説明できる。		古代から現代に至る我が国の歴史の基礎的知識について、その概要を説明できる。		古代から現代に至る我が国の歴史の基礎的知識について、十分に説明できない。	
到達目標2	日本の歴史について、詳細に説明できる。		日本の歴史の流れについて、その概略を説明できる。		日本の歴史の流れについて、十分に説明できない。	
到達目標3	国際社会に生きる日本人としての自覚について、歴史の展開に即して詳細に説明できる。		国際社会に生きる日本人としての自覚について、歴史の展開に即して説明できる。		国際社会に生きる日本人としての自覚について、歴史の展開に即して十分に説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	日本史を学ぶことによって、わが国の伝統や文化を理解し、国際社会に生きる日本人としての資質を養う。特に日本文化の特色・人々の生活・都市の形成・地域同士の交流などに着目して、日本の諸地域における歴史の流れについて、教科書や歴史資料を通して理解を深める。					
授業の進め方・方法						
注意点	教科書に加えて、通常授業では歴史資料集や学習プリント等を使用する。また、ノート提出も予定しているので、「講義をしっかりと聴き、ノートをしっかりとる」事を心がけてほしい。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	原始・古代		古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		2週	原始・古代		古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		3週	原始・古代		古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		4週	原始・古代		古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		5週	原始・古代		古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		6週	【前期中間試験】			
		7週	中世		武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		8週	中世		武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
	2ndQ	9週	中世		武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		10週	中世		武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		11週	中世		武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		12週	近世 (1)		幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。(安土・桃山～江戸初期)	
		13週	近世 (1)		幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。(安土・桃山～江戸初期)	
		14週	近世 (1)		幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。(安土・桃山～江戸初期)	
		15週	近世 (1)		幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。(安土・桃山～江戸初期)	
		16週	【前期末試験】 【答案返却時間】			
後期	3rdQ	1週	近世 (2)		幕藩体制の展開や動揺の様相について理解し説明できる。(江戸中期・後期)	
		2週	近世 (2)		幕藩体制の展開や動揺の様相について理解し説明できる。(江戸中期・後期)	
		3週	近世 (2)		幕藩体制の展開や動揺の様相について理解し説明できる。(江戸中期・後期)	
		4週	近代 (1)		近代国家の成立の様相について理解し説明できる。(幕末～明治)	
		5週	近代 (1)		近代国家の成立の様相について理解し説明できる。(幕末～明治)	

		6週	近代（1）	近代国家の成立の様相について理解し説明できる。 （幕末～明治）
		7週	近代（1）	近代国家の成立の様相について理解し説明できる。 （幕末～明治）
		8週	【後期中間試験】	
	4thQ	9週	近代（2）	近代日本とアジアの関係について理解し説明できる。 （大正～戦前昭和）
		10週	近代（2）	近代日本とアジアの関係について理解し説明できる。 （大正～戦前昭和）
		11週	近代（2）	近代日本とアジアの関係について理解し説明できる。 （大正～戦前昭和）
		12週	現代	現代の世界と日本との関わりについて説明できる。 （戦後昭和～平成）
		13週	現代	現代の世界と日本との関わりについて説明できる。 （戦後昭和～平成）
		14週	現代	現代の世界と日本との関わりについて説明できる。 （戦後昭和～平成）
		15週	現代	現代の世界と日本との関わりについて説明できる。 （戦後昭和～平成）
		16週	【学年末試験】 【答案返却時間】	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート・課題	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	体育
科目基礎情報						
科目番号	0027		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材						
担当教員	新井 修					
到達目標						
1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。 2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3.運動・活動中は安全に留意して行動できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。		自己の取るべき行動を判断し、他人と協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。		自己の取るべき行動が判断できない。または他人と協力する姿勢がみられず、活動に参加できない。	
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。		教員の指示に従わず、運動の技能や体力を身につけることができない。	
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。		活動中、事故の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。		活動中、安全に留意して行動できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図る。合わせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯に渡って運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。					
授業の進め方・方法						
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動してください。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにしてください。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	種目選択と実践		(1)各種目のルールを理解し説明できる。	
		2週	種目選択と実践		(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。	
		3週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		8週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
	2ndQ	9週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		10週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		11週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		12週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		13週	体育大会(前期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		14週	体育大会(前期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		15週	体育大会(前期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	種目選択と実践		(1)各種目のルールを理解し説明できる。	
		2週	種目選択と実践		(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。	
		3週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		8週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
	4thQ	9週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		10週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		11週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		12週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	

		13週	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		14週	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		15週	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	日本語総合
科目基礎情報						
科目番号	0028		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	高専日本語アビリティⅡ (阿南高専国語) / 級別漢字学習帳7級～2級 (東京法令出版)					
担当教員	錦織 浩文					
到達目標						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	古文・漢文の時代背景・大意を適切に説明し、よどみなく暗唱できる。		古文・漢文の時代背景・大意を説明し、暗唱できる。		古文・漢文の時代背景・大意を説明できない。	
到達目標2	情報を収集・選択・構成を適切に行い、効果的に活用できる。		情報を収集・選択・構成を適切に行い、活用できる。		情報を収集・選択・構成を行えない。	
到達目標3	論理的で、かつ、効果的な口頭表現ができ、その向上方法を説明できる。		論理的で、かつ、効果的な口頭表現ができる。		論理的な口頭表現ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	日本語の表現に関する基礎知識・技術を修得し、論理的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。授業は、表現に関する実践を基本とする。また、古文・漢文の鑑賞により社会を見つめる視野拡大の起点を獲得し、社会的データの活用や漢字学習により理解や表現の力を養う。					
授業の進め方・方法						
注意点	毎時間の冒頭に「読書の時間」を設けるので、各自で本を用意すること（マンガ、雑誌、テキストを除く）。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		シラバスにより、到達目標、表代わり衣、達成度基準等を理解する。	
		2週	情報の信頼性		情報の信頼性の確保について、説明できる。	
		3週	情報の収集と分類		ブレーン・ストーミング法、K・J法について説明し、実践できる。	
		4週	情報の収集と分類		ブレーン・ストーミング法、K・J法について説明し、実践できる。	
		5週	情報の収集と分類		ブレーン・ストーミング法、K・J法について説明し、実践できる。	
		6週	口頭表現		口頭表現の特徴について、説明できる。	
		7週	口頭表現		口頭表現の特徴について、説明できる。	
		8週	口頭表現		口頭表現の特徴について、説明できる。	
	2ndQ	9週	【前期中間試験】			
		10週	漢字とかな		漢字とかな等について、説明できる。	
		11週	漢字とかな		漢字とかな等について、説明できる。	
		12週	漢字とかな		漢字とかな等について、説明できる。	
		13週	プレゼンテーション		情報を収集・選択・活用し、図表を用いたプレゼンテーションを実践できる。	
		14週	プレゼンテーション		情報を収集・選択・活用し、図表を用いたプレゼンテーションを実践できる。	
		15週	プレゼンテーション		情報を収集・選択・活用し、図表を用いたプレゼンテーションを実践できる。	
		16週	プレゼンテーション		情報を収集・選択・活用し、図表を用いたプレゼンテーションを実践できる。	
後期	3rdQ	1週	【前期期末試験】 【答案返却】			
		2週	古文		枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明し、暗唱できる。	
		3週	古文		枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明し、暗唱できる。	
		4週	古文		枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明し、暗唱できる。	
		5週	古文		枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明し、暗唱できる。	
		6週	漢文		論語の背景・大意を理解し、暗唱できる。	
		7週	【後期中間試験】			
		8週	小論文		情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べることができる。	
	4thQ	9週	小論文		情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べることができる。	
		10週	小論文		情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べることができる。	

		11週	小論文	情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べる ことができる。
		12週	小論文	情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べる ことができる。
		13週	グループ・ディスカッション	グループ・ディスカッション技法を理解し、実践で きる。
		14週	グループ・ディスカッション	グループ・ディスカッション技法を理解し、実践で きる。
		15週	【学年末試験】 【答案返却】	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	5	0	0	20	5	100
基礎的能力	70	5	0	0	20	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	政治社会
科目基礎情報						
科目番号	0029		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教養の政治学・経済学（学術図書出版社）/憲法[第五版]（岩波書店）					
担当教員	今田 浩之					
到達目標						
1.民主政治の基本理論として社会契約説を説明できる。 2.日本国憲法を基軸に現在の政治制度を説明できる。 3.現在の国民経済や経済関連の諸政策を説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	民主政治を基本理論として社会契約説を説明できる。		社会契約説の基本枠組みを説明できる。		社会契約説の本枠組みを説明できない。	
到達目標2	現在の政治制度の基本原理・制度・運用を説明できる。		現在の政治制度の基本構造を説明できる。		現在の政治制度の基本構造を説明できない。	
到達目標3	現在の国民経済の問題点や経済関連の諸政策の課題を説明できる。		現在の国民経済や経済関連の諸政策を説明できる。		現在の国民経済や経済関連の諸政策を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	この科目では、民主政治の在り方と経済社会の仕組みについて包括的に学習する。授業では、まず、民主主義の基本原理を理解したうえで、現在の政治制度を、日本国憲法を基軸に考察する。今日的な人権問題や社会問題についても学ぶ。次いで、経済の基礎概念を理解した上で、現在の国民経済の把握方法や経済関連の諸政策を考察する。現代企業論についても学ぶ。以上により、政治と経済の基本的論点について説明できる能力を身につける。					
授業の進め方・方法						
注意点	日常的に、政治や経済の問題について主体的に関心を持つようにしてください。時事的な話題や自分の身の回りの政治や経済に目を向け、授業との関連付けをしましょう。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	政治原論		社会と政治、社会契約説の基本枠組みについて説明できる。	
		2週	政治原論		社会と政治、社会契約説の基本枠組みについて説明できる。	
		3週	政治各論 「大日本帝国憲法」		天皇大権、統治機構、臣民の権利について説明できる。	
		4週	政治各論 「大日本帝国憲法」		天皇大権、統治機構、臣民の権利について説明できる。	
		5週	政治各論 「日本国憲法」 国民主権・権力分立		主権、国民主義、権力分立について説明できる。	
		6週	政治各論 「日本国憲法」 国民主権・権力分立		主権、国民主義、権力分立について説明できる。	
		7週	前期中間試験			
		8週	国会・選挙制度・政党		国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
	2ndQ	9週	国会・選挙制度・政党		国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
		10週	国会・選挙制度・政党		国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
		11週	国会・選挙制度・政党		国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
		12週	内閣・官僚制		議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		13週	内閣・官僚制		議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		14週	内閣・官僚制		議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		15週	内閣・官僚制		議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		16週	前学期末試験 答案返却時間			
後期	3rdQ	1週	裁判所・基本的人権		司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		2週	裁判所・基本的人権		司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		3週	裁判所・基本的人権		司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		4週	裁判所・基本的人権		司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		5週	圧力団体・世論		日本の圧力団体、世論について説明できる。	

		6週	経済原論	経済理論、経済体制、経済主体、経済活動について説明できる。
		7週	経済各論 市場経済と価格機構	市場機構、独占・寡占について説明できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	経済各論 国民経済	国民所得、国富について説明できる。
		10週	経済各論 国民経済	国民所得、国富について説明できる。
		11週	経済各論 景気循環	景気変動、景気指標について説明できる。
		12週	経済各論 経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
		13週	経済各論 経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
		14週	経済各論 経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
		15週	経済各論 現代企業論	企業組織、企業の社会的責任について説明できる。
		16週	後学期末試験 答案返却時間	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	30	0	90
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	英会話英作文	
科目基礎情報							
科目番号	0030			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	New Favorite English Expression II（東京書籍）、同準拠Workbook Task-based/						
担当教員	小笠原 麻衣子						
到達目標							
1. スピーキング活動では、教科書の内容を十分理解した上で、発話練習を怠らず、積極的に自分の意見を発現できる。 2. 学習した構文を応用して、100Words程度の自由作文は、ほとんどミスがないように書けるようになる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	教科書のトピックに関する内容を十分理解し、自身を持って積極的に発表できる。			教科書の内容を理解し、発表を実践できる。		教科書の内容が十分理解できず、発表を実践することが困難である。	
到達目標2	構文を理解し、それらを応用することができ、自分の考えを英語で表現できる。			構文を理解し、指導者のサポートによりそれを応用できる。英語で自己表現しようとする姿勢がある。		構文が十分理解できず、応用が困難であり、まとまった考えを英語で表現できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	スピーキング活動ではグループやペアでの活動で発話の機会を持つ。前期ではプレゼンテーション、後期ではディベートなどを取り入れ、自分の意見を自身を持って発表する実践力を養う。ライティング活動では基本的な構文、文法事項を学び、ある程度のパラグラフが書けるよう英作文のスキル向上を目指す。前期後期、各1回のオーラルチェックで十分な自己表現ができるよう日々の講義で動機付け、技能の習熟を目的とする。						
授業の進め方・方法							
注意点	1. 予習復習を怠りなく授業に臨む。 2. 授業に必ず辞書を持参する。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Unit1 Lesson1～4		基礎的な文構造、文法事項を学び、トピックに応じて実際にそれらを使うことができる。		
		2週	Unit1 Lesson1～4		基礎的な文構造、文法事項を学び、トピックに応じて実際にそれらを使うことができる。		
		3週	Unit1 Lesson1～4		基礎的な文構造、文法事項を学び、トピックに応じて実際にそれらを使うことができる。		
		4週	Unit1 Lesson1～4		基礎的な文構造、文法事項を学び、トピックに応じて実際にそれらを使うことができる。		
		5週	Unit2 Lesson5～8		基礎的な文構造、文法事項を学び、トピックに応じて実際にそれらを使うことができる。		
		6週	Unit2 Lesson5～8		基礎的な文構造、文法事項を学び、トピックに応じて実際にそれらを使うことができる。		
		7週	Unit2 Lesson5～8		基礎的な文構造、文法事項を学び、トピックに応じて実際にそれらを使うことができる。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	Unit7 Lesson25～28		相手に確実に伝えるためにスピーチの種類の構成要素を学び、実際にプレゼンテーションすることができる。		
		10週	Unit7 Lesson25～28		相手に確実に伝えるためにスピーチの種類の構成要素を学び、実際にプレゼンテーションすることができる。		
		11週	Unit7 Lesson25～28		相手に確実に伝えるためにスピーチの種類の構成要素を学び、実際にプレゼンテーションすることができる。		
		12週	Unit3 Lesson9～12		相手に確実に伝えるためにスピーチの種類の構成要素を学び、実際にプレゼンテーションすることができる。		
		13週	Unit3 Lesson9～12		相手に確実に伝えるためにスピーチの種類の構成要素を学び、実際にプレゼンテーションすることができる。		
		14週	Unit3 Lesson9～12		相手に確実に伝えるためにスピーチの種類の構成要素を学び、実際にプレゼンテーションすることができる。		
		15週	自由作文、オーラルチェック		100Words程度の作文をほとんどミスなく作成し、それを口頭発表できる。		
		16週	前期期末試験				
後期	3rdQ	1週	Unit4 Lesson13～16		パラグラフの構成と書き方について学び、それを実践することができる。		
		2週	Unit4 Lesson13～16		パラグラフの構成と書き方について学び、それを実践することができる。		
		3週	Unit4 Lesson13～16		パラグラフの構成と書き方について学び、それを実践することができる。		

		4週	Unit4 Lesson13～16	パラグラフの構成と書き方について学び、それを実践することができる。
		5週	Unit5 Lesson17～20	パラグラフの構成と書き方について学び、それを実践することができる。
		6週	Unit5 Lesson17～20	パラグラフの構成と書き方について学び、それを実践することができる。
		7週	Unit5 Lesson17～20	パラグラフの構成と書き方について学び、それを実践することができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	Unit8 Lesson29～32	意見を交換するためにディベートの概要を理解し、論題について意見を述べることができる。
		10週	Unit8 Lesson29～32	意見を交換するためにディベートの概要を理解し、論題について意見を述べることができる。
		11週	Unit8 Lesson29～32	意見を交換するためにディベートの概要を理解し、論題について意見を述べることができる。
		12週	Unit6 Lesson21～24	意見を交換するためにディベートの概要を理解し、論題について意見を述べることができる。
		13週	Unit6 Lesson21～24	意見を交換するためにディベートの概要を理解し、論題について意見を述べることができる。
		14週	Unit6 Lesson21～24	意見を交換するためにディベートの概要を理解し、論題について意見を述べることができる。
		15週	自由作文、オーラルチェック	100Words程度の作文をほとんどミスなく作成し、それを口頭発表できる。
		16週	後期期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	60	15	0	0	10	0	15	100
基礎的能力	60	15	0	0	10	0	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	20	0	10	100
基礎的能力	70	0	0	0	20	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	法学
科目基礎情報						
科目番号	0032		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	アクセス法学（嵯峨野書院）/法の世界へ[第6版](有斐閣)					
担当教員	今田 浩之					
到達目標						
1. 法規範の特質、法分類、裁判手続の基本について説明できる。 2. 憲法の基本的人権論、司法審査理論について説明できる。 3. 民法、刑法などの原理・制度・運用について説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	法規範の特質分析や法分類の意義、裁判手続における立証責任の意義について説明できる。		法規範の特質、法分類、裁判手続の基本について説明できる。		法規範の特質、法分類、裁判手続の基本について説明できない。	
到達目標2	憲法の基本的人権に関する判例の意義と課題を説明できる。		憲法の基本的人権論、司法審査理論について説明できる。		憲法の基本的人権論、司法審査理論について説明できない。	
到達目標3	民法、刑法などの原理・制度・運用について説明できる。		民法、刑法などの原理・制度について説明できる。		民法、刑法などの原理・制度について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
1 1						
教育方法等						
概要	この科目では、具体的な法文や訴訟判例を素材に、現行法の制度・運用について検討し、各自が法的思考能力を身に付けることを目標とする。					
授業の進め方・方法	授業では、まず、「法学基礎論」で法学の基礎的知識や方法論を学び、次に「法学各論」で各法分野につき、制度や運用に関する具体的な法文や訴訟判例の検討を通じて、法的思考方法を習得する。					
注意点	日常的に、様々な現実社会の問題について、法的観点から考えてみるようにして下さい。 新しい立法や裁判の動向、権利や自由に関する時事的な話題にも積極的に目を向けましょう。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	法とは何か		社会規範としての法の特徴、法の諸分類について説明できる。	
		2週	法とは何か		社会規範としての法の特徴、法の諸分類について説明できる。	
		3週	法の解釈		法の解釈技術について説明できる。	
		4週	法の解釈		法の解釈技術について説明できる。	
		5週	裁判の構造		裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
		6週	裁判の構造		裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
		7週	裁判の構造		裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
		8週	憲法の基本的人権保障		基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
	2ndQ	9週	憲法の基本的人権保障		基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		10週	憲法の基本的人権保障		基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		11週	憲法の基本的人権保障		基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		12週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		13週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		14週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		15週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		16週	前学期末試験			
後期	3rdQ	1週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		2週	消費者保護法		特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。	
		3週	消費者保護法		特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。	
		4週	消費者保護法		特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。	
		5週	製造物責任法		製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。	

		6週	製造物責任法	製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。
		7週	製造物責任法	製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。
		8週	刑法	罪刑法定主義、犯罪成立要件、刑罰などについて説明できる。
	4thQ	9週	刑法	罪刑法定主義、犯罪成立要件、刑罰などについて説明できる。
		10週	刑法	罪刑法定主義、犯罪成立要件、刑罰などについて説明できる。
		11週	刑事訴訟法	適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。
		12週	刑事訴訟法	適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。
		13週	労働法	労働基準法、男女雇用機会均等法などについて説明できる。
		14週	労働法	労働基準法、男女雇用機会均等法などについて説明できる。
		15週	後学期末試験	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民	民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	2	
				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	2	
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
		地歴・公民		現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	2	
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	2	
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	2	
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2	
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	20	0	0	80
専門的能力	10	0	0	0	10	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	哲学
科目基礎情報						
科目番号	0033			科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）			対象学年	4	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	使用しません。適宜、プリント資料を配付します/高等学校倫理（第一学習社）					
担当教員	藤居 岳人					
到達目標						
1. 哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について説明できる。 2. 議論用資料作成を通して、自分の主張を明確に文章にまとめることができる。 3. 議論を通して、周囲の意見を認めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について、講義内容の詳細を踏まえて、説明できる。		哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について、講義内容の概略を踏まえて、説明できる。		哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について説明できない。	
到達目標2	論理に矛盾がなく、十分な分量で自分の主張を議論用資料として文章にまとめることができる。		十分な分量で自分の主張を議論用資料として文章にまとめることができる。		論理に矛盾があり、自分の主張が明確には文章にまとめられていない。	
到達目標3	議論に主体的にかかわり、周囲の意見を十分に尊重できる。		議論にかかわり、周囲の意見を尊重できる。		議論へのかかわりが不十分で、周囲の意見の尊重も不十分である。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	自分自身がもつさまざまな疑問に対して、徹底的に考え抜くことが哲学における基本的態度です。「哲学する」とはどのようなことかについて、西洋と日本の思想を取り上げつつ、講義してゆきます。そして、哲学上の諸問題に関する講義と議論用資料作成を・議論を通して、①それぞれの学生が「哲学する」ことができるように動機づけして、国際人として通用する柔軟な思考を養成します。②それぞれの学生が多様な価値観を認めつつ、自己の確立ができるようにします。					
授業の進め方・方法						
注意点	議論のための資料として、適宜、小レポートを提出してもらう予定です。レポートはU S Bメモリー・メール等で受けつけるので、その心づもりをしておいてください。議論は年4回を予定しています。また、講義で述べたことについて定期試験で確認する方針なので、「講義をしっかりと聴く」ことを心がけてほしいと思います。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	「哲学」とは？		「哲学」と「思想」との相違について、説明できる。	
		2週	「哲学」とは？		「哲学」と「思想」との相違について、説明できる。	
		3週	「哲学」「philosophia」の語		「哲学」の語の由来・「philosophia」の語の由来について、説明できる。	
		4週	「哲学」「philosophia」の語		「philosophia」の語の由来について、説明できる。	
		5週	「哲学」「philosophia」の語		「philosophia」の語の由来について、説明できる。	
		6週	「哲学」「philosophia」の語		「philosophia」の語の由来について、説明できる。	
		7週	議論		資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。	
		8週	西洋における哲学上の諸問題 1		デカルトを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
	2ndQ	9週	西洋における哲学上の諸問題 1		デカルトを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		10週	西洋における哲学上の諸問題 2		ロック・ヒュームを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		11週	西洋における哲学上の諸問題 2		ロック・ヒュームを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		12週	西洋における哲学上の諸問題 3		カント・ヘーゲルを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		13週	西洋における哲学上の諸問題 3		カント・ヘーゲルを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		14週	西洋における哲学上の諸問題 3		カント・ヘーゲルを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		15週	議論		資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。	
		16週	前期期末試験 答案返却時間			
後期	3rdQ	1週	日本における哲学上の諸問題 1		『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		2週	日本における哲学上の諸問題 1		『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		3週	日本における哲学上の諸問題 1		『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		4週	日本における哲学上の諸問題 2		言霊の思想を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		5週	日本における哲学上の諸問題 2		言霊の思想を中心にした古代人の思想について、説明できる。	

		6週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。
		7週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
		8週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
	4thQ	9週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
		10週	日本における哲学上の諸問題 4	世阿弥を中心に中世人の思想について、説明できる。
		11週	日本における哲学上の諸問題 4	世阿弥を中心に中世人の思想について、説明できる。
		12週	日本における哲学上の諸問題 5	千利休を中心に近世人の思想について、説明できる。
		13週	日本における哲学上の諸問題 5	千利休を中心に近世人の思想について、説明できる。
		14週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。
		15週	後期期末試験 答案返却時間	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	32	8	100
基礎的能力	60	0	0	0	32	8	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	体育	
科目基礎情報							
科目番号	0034		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)		対象学年		4		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材							
担当教員	新井 修						
到達目標							
1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。 2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3.運動・活動中は安全に留意して行動できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1		自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。		自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。		自己の取るべき行動が判断できない。または他人と協力する姿勢が見られず、活動に参加できない。	
到達目標2		自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。		教員の指示に従わず、運動の技能や体力を身につけることができない。	
到達目標3		活動中、自己のみならず仲間も安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取る事ができる。		活動中、自分の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取る事ができる。		活動中、安全に留意して活動できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。					
授業の進め方・方法							
注意点		普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動してください。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 前期の体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	種目選択と実践		(1)各種目のルールを理解し説明できる。		
		2週	種目選択と実践		(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。		
		3週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		4週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		5週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		6週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		7週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		8週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
	4thQ	9週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		10週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		11週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		12週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		13週	体育大会(後期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		14週	体育大会(後期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		15週	体育大会(後期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	化学 3
科目基礎情報						
科目番号	0035		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	大学への橋渡し 有機化学(化学同人)/					
担当教員						
到達目標						
1.分子軌道から共有結合を説明できる。 2.熱化学方程式から、ヘスの法則を用いて反応熱を計算することができる。 3.基本的な有機化合物の性質を、官能基の特性から説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	分子軌道から共有結合を理解し、配位結合など基礎的な用語を説明できる。		分子軌道から共有結合を理解し、説明できる。		分子軌道と共有結合の関連性を説明できない。	
到達目標2	熱化学方程式から反応式を計算でき、活性化エネルギーや結合エネルギーを説明できる。		熱化学方程式から反応熱を計算することができる。		反応熱を計算することができない。	
到達目標3	基本的な有機化合物の性質と反応性の違いを、官能基の特性から説明できる。		基本的な有機化合物の性質を、官能基の特性から説明できる。		有機化合物の性質と官能基の特性の関連性を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	化学とは物質の変化の裏にある基本的な原理・法則を、実験や理論を通して追求していく学問である。それらの成果は様々な工業製品を通じて現在の物質文明を支えている。本講義は化学に関する基礎的な学習をふまえ、技術者として必要な化学的概念を理解することを目的としている。					
授業の進め方・方法						
注意点	1,2年生で学習した化学の内容を必ず復習し、本講義を受講してください。自学自習の課題は全部で15回出しますが、必ず自分で解決してください。課題には1,2年生の化学の範囲も含めます。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	原子の構造		(1) 原子を構成する粒子を理解sk質量数を決定できる。 (2) 電気軌道を用いて電子配置を記述できる。	
		2週	原子の構造		(1) 原子を構成する粒子を理解sk質量数を決定できる。 (2) 電気軌道を用いて電子配置を記述できる。	
		3週	化学結合		(1) 分子軌道の考えに基づき、溶融結合を説明できる。	
		4週	化学結合		(1) 分子軌道の考えに基づき、溶融結合を説明できる。	
		5週	化学結合		(1) 分子軌道の考えに基づき、溶融結合を説明できる。	
		6週	化学反応		(1) 係数を考慮して化学反応式を立式できる。 (2) 熱化学方程式から反応熱を計算することができる。 (3) 化学平衡、平衡状態を説明できる。	
		7週	化学反応		(1) 係数を考慮して化学反応式を立式できる。 (2) 熱化学方程式から反応熱を計算することができる。 (3) 化学平衡、平衡状態を説明できる。	
		8週	化学反応		(1) 係数を考慮して化学反応式を立式できる。 (2) 熱化学方程式から反応熱を計算することができる。 (3) 化学平衡、平衡状態を説明できる。	
	4thQ	9週	中間試験			
		10週	官能基と化合物		(1) 基本的な有機化合物（炭化水素、脂肪族化合物、芳香族化合物など）の性質を官能基の特性から類推、説明できる。	
		11週	官能基と化合物		(1) 基本的な有機化合物（炭化水素、脂肪族化合物、芳香族化合物など）の性質を官能基の特性から類推、説明できる。	
		12週	官能基と化合物		(1) 基本的な有機化合物（炭化水素、脂肪族化合物、芳香族化合物など）の性質を官能基の特性から類推、説明できる。	
		13週	官能基と化合物		(1) 基本的な有機化合物（炭化水素、脂肪族化合物、芳香族化合物など）の性質を官能基の特性から類推、説明できる。	
		14週	官能基と化合物		(1) 基本的な有機化合物（炭化水素、脂肪族化合物、芳香族化合物など）の性質を官能基の特性から類推、説明できる。	
		15週	官能基と化合物		(1) 基本的な有機化合物（炭化水素、脂肪族化合物、芳香族化合物など）の性質を官能基の特性から類推、説明できる。	

		16週	期末試験及び返却				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	10	0	50
専門的能力	30	0	0	0	10	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	10	0	10

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	英語の語彙・文法（1）	
科目基礎情報							
科目番号	0036		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年		4		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	Start-up Course for the TOEIC Test (成美同)、英単語・熟語ダイアログ1200（三省堂）/TOEICテスト新公式問題集 vol.1～5						
担当教員	林田 栄治						
到達目標							
1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 2.授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を理解し、運用できるようになる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	TOEICの出題傾向、出題形式を把握し、解答時間も考慮しながら適切な対応ができる。		TOEICの出題傾向を把握し、各パートの問題形式に対応できる。		TOEICの出題傾向を把握しておらず、各パートの問題形式に対応できない。		
到達目標2	授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の90%以上を暗記し、正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の60%程度を暗記し、ほぼ正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の暗記が60%未満で運用力が低い。		
到達目標3	授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を90%以上理解し、正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を60%程度理解し、ほぼ正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文の理解が60%未満で運用力が低い。		
到達目標4	TOEICスコア375点以上を獲得できる。		TOEICスコア300～375点を獲得できる。		TOEICスコア300点を獲得できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	TOEIC実践形式の問題演習を通して語彙力、文法力、聴解力、読解力を総合的に向上させ、300～375点のTOEICスコアを達成する。また、ダイアログ式の単語・熟語集を用いて、単語や熟語を暗記し、適切に運用できるようになる。						
授業の進め方・方法							
注意点	1.授業には辞書（電子辞書可）を持参すること。 2.オリエンテーションで説明するやり阿多で十分予習・復習を行うこと。 3.【重要】TOEICスコアを成績に含めるので前期に実施されるTOEICを必ず受験すること。（獲得スコアが300定位未満の場合、総合評価の「その他」の10点分が与えられない。）						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		授業の目的、自宅目標、学習方法を理解する。		
		2週	Unit 1		各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。		
		3週	Unit 2		各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。		
		4週	Unit 3		各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。		
		5週	Unit 4		各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。		

		6週	Unit 5	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		7週	Unit 6	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		8週	まとめと復習	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
	2ndQ	9週	前期中間試験	
		10週	Unit 7	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		11週	Unit 8	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		12週	Unit 9	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		13週	Unit 10	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		14週	Unit 11	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		15週	Unit 12	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。

		16週	まとめと復習	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
--	--	-----	--------	---

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	60	0	0	0	20	10	10	100
基礎的能力	60	0	0	0	20	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	英語の語彙・文法（２）	
科目基礎情報							
科目番号	0037			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	Best practice for the TOEIC Test 成美堂/対話文で覚える英単語・熟語ダイアログ 1200 旺文社						
担当教員	勝藤 和子						
到達目標							
1. 教科書・語彙集などの教材で学習した語彙を理解し、運用できるようになる。 2. 教科書で取り上げた文法事項や構文を理解し、運用できるようになる。 3. TOEIC 325点～400点に相当する読解力や聴解力を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	教科書・参考書などの教材で学習した語彙・表現を文脈の中で適切に理解し、自ら運用できる。			教科書・参考書などの教材で学習した語彙・表現を文脈の中で適切に理解できる。		教科書・参考書などの教材で学習した語彙・表現を文脈の中で適切に理解できない。	
到達目標2	教科書で取り上げた文法事項や構文を文脈の中で適切に理解し、自ら運用できる。			教科書で取り上げた文法事項や構文を文脈の中で適切に理解できる。		教科書で取り上げた文法事項や構文を文脈の中で適切に理解できない。	
到達目標3	授業で扱った英文を読解および聴解において十分に理解し、TOEICスコア400点以上を取得できる。			授業で扱った英文を読解および聴解において十分に理解し、TOEICスコア325点以上を取得できる。		TOEICスコア325点を取得できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	実戦形式のTOEIC問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図り、TOEICスコア400点以上の取得を目指す。						
授業の進め方・方法							
注意点	1.授業には辞書(電子辞書可)を持参すること。 2.【重要】後学期中にTOEIC IP テストを必ず受験すること。(325点未満は評価割合の「その他」の得点が与えられない。) 3.単語テストを実施するので、英単語・熟語ダイアログ1200(旺文社)を準備しておくこと。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション		シラバスの内容を理解する。		
		2週	Unit1 Restauranr ～ Unit6 Letter&E-mail		■TOEIC問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。		
		3週	Unit1 Restauranr ～ Unit6 Letter&E-mail		■各UnitはRestaurantやEntertainmentなどのトピック別の構成になっており、それぞれのトピックに頻出の英語表現などに慣れる。		
		4週	Unit1 Restauranr ～ Unit6 Letter&E-mail		■各Unitごとに取り上げられた人称代名詞や現在・過去の時制などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		
		5週	Unit1 Restauranr ～ Unit6 Letter&E-mail		■各Unitごとに取り上げられた人称代名詞や現在・過去の時制などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		
		6週	Unit1 Restauranr ～ Unit6 Letter&E-mail		■各Unitごとに取り上げられた人称代名詞や現在・過去の時制などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		
		7週	Unit1 Restauranr ～ Unit6 Letter&E-mail		■各Unitごとに取り上げられた人称代名詞や現在・過去の時制などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		
		8週	後期中間テスト				
	4thQ	9週	Unit7 Health ～ Unit14 Education		■TOEIC問題演習を通して、英語の語彙力、文法力、聴解力、読解力の総合的向上を図る。		
		10週	Unit7 Health ～ Unit14 Education		■各UnitはRestaurantやEntertainmentなどのトピック別の構成になっており、それぞれのトピックに頻出の英語表現などに慣れる。		
		11週	Unit7 Health ～ Unit14 Education		■各Unitごとに取り上げられた自動詞と他動詞や副詞を作る接尾辞などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		
		12週	Unit7 Health ～ Unit14 Education		■各Unitごとに取り上げられた自動詞と他動詞や副詞を作る接尾辞などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		
		13週	Unit7 Health ～ Unit14 Education		■各Unitごとに取り上げられた自動詞と他動詞や副詞を作る接尾辞などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		
		14週	Unit7 Health ～ Unit14 Education		■各Unitごとに取り上げられた自動詞と他動詞や副詞を作る接尾辞などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		
		15週	Unit7 Health ～ Unit14 Education		■各Unitごとに取り上げられた自動詞と他動詞や副詞を作る接尾辞などTOEIC頻出の重要文法事項を理解しながら問題を解く。		

		16週	学年末試験 答案返却					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	60	0	0	0	10	15	15	100
基礎的能力	60	0	0	0	10	15	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	経済学	
科目基礎情報							
科目番号	0038		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年	5			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	教養の政治学・経済学(学術図書出版社)/入門経済学[第4版](日本評論社)						
担当教員	今田 浩之						
到達目標							
1. 経済体制や価格機構について説明できる。 2. 国民経済計算や景気循環について説明できる。 3. 金融政策や財政政策について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	経済体制の問題点や価格機構の限界について説明できる。		経済体制や価格機構について基本的な説明ができる。		経済体制や価格機構について基本的な説明ができない。		
到達目標2	国民経済計算や景気循環について経済資料に即した説明ができる。		国民経済計算や景気循環について基本的な説明ができる。		国民経済計算や景気循環について基本的な説明ができない。		
到達目標3	金融政策や財政政策について経済資料に即した説明ができる。		金融政策や財政政策について基本的な説明ができる。		金融政策や財政政策について基本的な説明ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	この科目では、経済現象に関わる基本的な概念や理論、政府などの経済政策を包括的に学習する。						
授業の進め方・方法	授業では、まず、経済学の基礎概念や理論を学ぶ。その上で、主にマクロ経済学の基本的論点について検討し、その概要と課題について説明できる能力を身に付ける。						
注意点	日常的に、家計・企業の経済問題や政府などの経済政策に主体的に関心を持つようにしてください。時事的な話題や自分の身の回りの経済現象に目を向け、授業との関連づけをしましょう。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	「経済理論」「経済体制」		経済現象と経済理論、資本主義・社会主義経済体制について説明できる。		
		2週	「経済理論」「経済体制」		経済現象と経済理論、資本主義・社会主義経済体制について説明できる。		
		3週	家計・企業		消費と貯蓄、生産と分業などについて説明できる。		
		4週	価格機構		市場と価格、均衡、独占と寡占、市場の限界などについて説明できる。		
		5週	価格機構		市場と価格、均衡、独占と寡占、市場の限界などについて説明できる。		
		6週	マーケティング戦略		経済環境分析、標的市場選定について説明できる。		
		7週	マーケティング戦略		経済環境分析、標的市場選定について説明できる。		
		8週	ブランド戦略		ブランドの分類、機能、評価基準、導入戦略について説明できる。		
	4thQ	9週	国民所得		国民経済計算、国富について説明できる。		
		10週	景気循環		景気循環、景気動向指数について説明できる。		
		11週	景気循環		景気循環、景気動向指数について説明できる。		
		12週	金融政策		金融市場、金融政策について説明できる。		
		13週	財政政策		財政の機能、予算類型、国債問題、租税体系について説明できる。		
		14週	財政政策		財政の機能、予算類型、国債問題、租税体系について説明できる。		
		15週	後学期末試験				
		16週	答案返却時間				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計	
総合評価割合	65	0	35	0	0	100	
基礎的能力	55	0	25	0	0	80	
専門的能力	10	0	10	0	0	20	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	バイオテクノロジー		
科目基礎情報								
科目番号	0039			科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)			対象学年	5			
開設期	後期			週時間数	2			
教科書/教材	スタンダード生化学(裳華房)/図書館の化学関連の本							
担当教員	一森 勇人							
到達目標								
1.生物機能についての化学的概念を理解できる。 2.環境問題についての化学的概念を理解できる。 3.生化学分析手法を理解できる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	生物機能についての化学的概念を理解して説明でき、実際の問題に適用できる。			生物機能についての化学的概念を理解できる。		生物機能についての化学的概念を理解できない。		
到達目標2	環境問題についての化学的概念を理解して説明でき、実際の問題に適用できる。			環境機能についての化学的概念を理解できる。		環境機能についての化学的概念を理解できない。		
到達目標3	生化学分析手法の原理を理解して説明でき、実際の問題に適用できる。			生化学分析手法の原理を理解できる。		生化学分析手法の原理を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	バイオテクノロジーは生物機能の化学的解明を行い、その成果を人類の生存や人間生活の向上を目指していくための学問である。本講義では、生物学の基礎的知識を身につけ、エンジニアとして必要な地球環境を考える力をつけることを目的とする。							
授業の進め方・方法								
注意点	今までに学習した化学の内容を必ず復習し、理解してから本講義を受講すること。 授業には計算機(電卓)を持ってくること。わからないことはそのままにしないで積極的に質問すること。自学自習の課題は全部で15回出すが、必ず自分で解決すること。							
授業計画								
		週	授業内容			週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	生命体の構造とメカニズム			(1)生命体の構成要素		
		2週	生命体の構造とメカニズム			(2)エネルギー代謝のメカニズム		
		3週	生命体の構造とメカニズム			(3)脂質の役割		
		4週	生命体の構造とメカニズム			(4)生体膜の機構		
		5週	生命体の構造とメカニズム			(5)炭水化物の役割		
		6週	生命体の構造とメカニズム			(6)アミノ酸 蛋白質の役割		
		7週	生命体の構造とメカニズム			(7)運動とエネルギー代謝		
		8週	生命体の構造とメカニズム			(7)運動とエネルギー代謝		
	4thQ	9週	中間試験					
		10週	環境			(1)温度、圧力の影響		
		11週	環境			(2)界面活性剤の機能と環境への影響		
		12週	環境			(3)大気汚染 (4)水質汚濁		
		13週	化学分析手法			(1)エネルギー消費量		
		14週	化学分析手法			(2)せっけん、合成洗剤		
		15週	化学分析手法			(3)COD		
		16週	期末試験 答案返却時間					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	50	0	0	0	50	0	0	100
基礎的能力	30	0	0	0	10	0	0	40
専門的能力	10	0	0	0	30	0	0	40
分野横断的能力	10	0	0	0	10	0	0	20

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	体育	
科目基礎情報							
科目番号	0040			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	新井 修						
到達目標							
1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。 2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3.運動・活動中は安全に留意して行動できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。			自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。		自己の取るべき行動が判断できない。または他人と協力する姿勢が見られず、活動に参加できない。	
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。			教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。		教員の指示に従わず、運動の技能や体力を身につけることができない。	
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間も安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取る事ができる。			活動中、自分の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取る事ができる。		活動中、安全に留意して活動できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。						
授業の進め方・方法							
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動してください。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 前期の体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	種目選択と実践		(1)各種目のルールを理解し説明できる。		
		2週	種目選択と実践		(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。		
		3週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		4週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		5週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		6週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		7週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		8週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
	2ndQ	9週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		10週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		11週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		12週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		13週	体育大会(前期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		14週	体育大会(前期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		15週	体育大会(前期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	英語総合 2		
科目基礎情報								
科目番号	0041			科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般教科 (平成25年度以前入学生)			対象学年	5			
開設期	前期			週時間数	2			
教科書/教材	Reading Explorer 1 (CENGAGE Learning)							
担当教員	勝藤 和子							
到達目標								
1.教材(DVD及び英文エッセイ)で用いられている、英語表現を理解するために必要な語彙・語法を習得する。 2.英語DVDを視聴し、その概要を正確に理解し、説明することができる。 3.300～400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に把握し、説明することができる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	教材で扱われた語彙・語法を適切に文脈の中で理解し、90%以上の正確さで自ら運用できる。			教材で扱われた語彙・語法を文脈の中で概ね理解したうえで、60～89%程度の正確さで使用できる。		教材で扱われた語彙・語法を適切に文脈の中で理解することが困難で、適切に使用することができない。		
到達目標2	2分程度の英語DVDを視聴し、その概要を正確に理解し、要点をまとめることができる。			2分程度の英語DVDを視聴し、その概要を正確に理解することができる。		2分程度の英語DVDを視聴し、その概要を正確に理解することができない。		
到達目標3	300～400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解し、要点をまとめることができる。			300～400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解することができる。		300～400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	科学・芸術・社会問題など様々な題材を取り上げた英語DVDを視聴し、特有の語彙・語法・表現に慣れるとともにその概要を理解する。さらに、その分野に関連する300～400語程度の英文を読んで、特有の語彙・語法・表現に慣れるとともに、その概要を理解する。							
授業の進め方・方法								
注意点	1.授業には必ず辞書を持参すること。 2.単語テストを実施します。 3.【重要】自学自習用にノートを1冊用意すること。ルーズリーフ及びリングノートは認めません。							
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		シラバスの内容を理解する。			
		2週	Unit 1 A Amazing Animals ～ Unit 6 Small Worlds		(1)英語DVDの視聴を通して、概要を把握する。			
		3週	Unit 1 A Amazing Animals ～ Unit 6 Small Worlds		(2)英文エッセイを読んで、概要を把握する。			
		4週	Unit 1 A Amazing Animals ～ Unit 6 Small Worlds		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		5週	Unit 1 A Amazing Animals ～ Unit 6 Small Worlds		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		6週	Unit 1 A Amazing Animals ～ Unit 6 Small Worlds		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		7週	Unit 1 A Amazing Animals ～ Unit 6 Small Worlds		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		8週	前期中間テスト					
	2ndQ	9週	Unit 7 Dinosaurs Ruled ～ Unit 12 Vanished!		(1)英語DVDの視聴を通して、概要を把握する。			
		10週	Unit 7 Dinosaurs Ruled ～ Unit 12 Vanished!		(2)英文エッセイを読んで、概要を把握する。			
		11週	Unit 7 Dinosaurs Ruled ～ Unit 12 Vanished!		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		12週	Unit 7 Dinosaurs Ruled ～ Unit 12 Vanished!		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		13週	Unit 7 Dinosaurs Ruled ～ Unit 12 Vanished!		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		14週	Unit 7 Dinosaurs Ruled ～ Unit 12 Vanished!		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		15週	Unit 7 Dinosaurs Ruled ～ Unit 12 Vanished!		(3)特徴的な語彙・表現を理解する。			
		16週	前期末試験 答案返却					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	15	0	15	100
基礎的能力	70	0	0	0	15	0	15	100

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	日本語の表現	
科目基礎情報							
科目番号	0042			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	高専日本語アビリティⅡ（阿南高専国語）						
担当教員	錦織 浩文						
到達目標							
1.敬語、表現ルールの基本を用い、ビジネス文書等を作成できる。 2.社会マナー・ルールの基本を用いた行動ができる。 3.表現法の基本を活用し、社会的なテーマについて情報収集・分類を行い、表現できる。 4.ファシリテーション、聴く技術について説明し、実践できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	敬語、表現ルールの基礎知識を適切に用い、効果的なビジネス文書等を作成できる。			敬語、表現ルールの基礎知識を用い、ビジネス文書等を作成できる。		敬語、表現ルールの基礎知識に欠ける。	
到達目標2	社会マナー・ルールの基礎知識を適切に用いた効果的な行動ができる。			社会マナー・ルールの基礎知識を用いた行動ができる。		社会マナー・ルールの基本知識に欠ける。	
到達目標3	表現法の基礎知識を活用し、社会的なテーマについて情報収集・選択・構成を行い、効果的に表現できる。			表現法の基礎知識を活用し、社会的なテーマについて情報収集・選択・構成を行い、表現できる。		表現法の基礎知識に欠け、社会的なテーマについての情報収集・選択・構成による表現ができない。	
到達目標4	ファシリテーション、聴く技術について説明し、効果的に実践できる。			ファシリテーション、聴く技術について説明し、実践できる。		ファシリテーション、聴く技術について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	社会で必要な口頭、文書表現能力の基礎を理解し、適切に使用して表現できる。						
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	敬語		敬語の基本を説明し、運用できる。		
		2週	電話		電話対応の基本形を説明し、運用できる。		
		3週	記録		記録・報告の基本形について説明し、作成できる。		
		4週	通信文		通信文の基本形について説明し、作成できる。		
		5週	通信文		通信文の基本形について説明し、作成できる。		
		6週	短歌・俳句		短歌・俳句の基本を説明し、作成できる。		
		7週	短歌・俳句		短歌・俳句の基本を説明し、作成できる。		
		8週	社会へのエントリー		社会的視点・ルールに則った言動について説明し、実践できる。		
	2ndQ	9週	社会へのエントリー		社会的視点・ルールに則った言動について説明し、実践できる。		
		10週	社会へのエントリー		社会的視点・ルールに則った言動について説明し、実践できる。		
		11週	ファシリテーション		合意形成のためのファシリテーションについて説明し、実践できる。		
		12週	ファシリテーション		合意形成のためのファシリテーションについて説明し、実践できる。		
		13週	ファシリテーション		合意形成のためのファシリテーションについて説明し、実践できる。		
		14週	聴く技術		聴く技術について説明し、実践できる。		
		15週	学年末試験 答案返却				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	20	0	120
基礎的能力	60	10	0	0	20	0	90
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	10	0	0	0	0	30

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	英語の語彙・文法（3）	
科目基礎情報							
科目番号	0043		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年		5		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	Fast Pass for the TOEIC TEST（センゲージラーニング株式会社）、Perfect Practice for the TOEIC TEST/TOEIC テストs						
担当教員	谷中 俊裕						
到達目標							
1.教科書・語彙集で学習した語彙を理解し運用できるようにする。 2.教科書で取り上げた文法事項や構文を理解し運用できるようにする。 3.TOEICスコア425点以上に相当する読解力を身に付ける。 4.TOEICスコア425点以上に相当するリスニング力を身に付ける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル		
到達目標1	教科書・参考書などの教材で学習した語彙・表現を適切な文脈において理解し自ら運用できる。		教科書・参考書などの教材で学習した語彙・表現を適切な文脈において理解できる。		左記のレベルに達しない。		
到達目標2	教科書・参考書などの教材で学習した英文法項目や構文を適切な文脈において理解し自ら運用できる。		教科書・参考書などの教材で学習した英文法項目や構文を適切な文脈において理解できる。		左記のレベルに達しない。		
到達目標3	教科書で学習したものと同程度の読解において十分理解しTOEICで425点以上を取得できる。		教科書で学習したものと同程度の読解において十分理解しTOEICで375点以上を取得できる。		左記のレベルに達しない。		
到達目標4	教科書で学習したものと同程度のリスニングにおいて十分理解しTOEICで425点以上を取得できる。		教科書で学習したものと同程度のリスニングにおいて十分理解しTOEICで375点以上を取得できる。		左記のレベルに達しない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	TOEICスコア425点以上の取得を目指し、英語の語彙力、文法力、読解力、リスニング力の向上を図る。						
授業の進め方・方法							
注意点	1.授業には辞書（電子辞書可）を持参すること 2.オリエンテーションで説明するやり方で十分予習・復習を行うこと。 3.【重要】TOEICスコアを成績に含めるので前期に実施されるTOEICを必ず受験すること。（獲得スコアが350点未満の場合、総合評価の「その他」の10点分が与えられない。）						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		シラバスの確認、学習方法の解説		
		2週	Unit 1～6		TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。		
		3週	Unit 1～6		TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。		
		4週	Unit 1～6		TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。		
		5週	Unit 1～6		TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。		
		6週	Unit 1～6		TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。		
		7週	Unit 1～6		TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。		
		8週	前期中間試験				

2ndQ	9週	Unit 7～12	TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。
	10週	Unit 7～12	TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。
	11週	Unit 7～12	TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。。
	12週	Unit 7～12	TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。
	13週	Unit 7～12	TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。
	14週	Unit 7～12	TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。
	15週	Unit 7～12	TOEICテストで425点を獲得するために必要な解読スピードと読解力を獲得。 TOEICテストで扱われる英文法や英文構造理解する。 TOEICテストで扱われる語彙を暗記する。 TOEICテストで425点を取るために必要なリスニング力を獲得できる。
	16週	前期期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計	
総合評価割合	60	10	20	0	10	100	
基礎的能力	60	10	20	0	10	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	英語の語彙・文法（４）	
科目基礎情報							
科目番号	0044		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）		対象学年		5		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 470,Masahiko Yamaguchi,George W.Pifer,Cengage Learning/TOEIC テスト新公式問題集 vol.1～3						
担当教員	藤井 浩美						
到達目標							
1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に適切に対応することができる。 2.教科書や語彙集で取り上げた語彙・文法、決まり文句の60%以上を記憶し、正しく運用できる。 3.TOEICスコア375～450点、もしくはそれ以上を取得できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に精通し、適切な対応ができる。		TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。		TOEICの出題傾向を把握できず、出題形式に不慣れで、各パートの問題形式に対応することができない。		
到達目標2	教科書や語彙集で取り上げた語彙・文法、決まり文句の90%以上を記憶し、正しく運用できる。		教科書や語彙集で取り上げた語彙・文法、決まり文句の60%以上を記憶し、ほぼ正しく運用できる。		教科書や語彙集で取り上げた語彙・文法、決まり文句の記憶が60%未満で、運用力が低い。		
到達目標3	TOEICスコア450点以上を取得できる。		TOEICスコア375～445点を取得できる。		TOEICスコア375点以上を満たすことができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	TOEIC実践形式の問題演習を通して語彙力、文法力、聴解力、読解力を総合的に向上させ、450点以上のTOEICスコア達成を目指す。ダイアログ式の単語・熟語集を用いて、単語や熟語を記憶し、適切に運用する能力を習得する。						
授業の進め方・方法							
注意点	1.必ず予習をして授業に臨むこと。 2.授業には辞書（電子辞書可）を持参すること。 3.英単語・ダイアログ1200の小テストを実施するので日頃から計画的に取り組んでおくこと。 4.【重要】後学期中にTOEIC IPテストを必ず受験すること。（375点未満は評価割合の「その他」の得点が与えられない。）						
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	オリエンテーション				
		2週	Unit1 ～ Unit6			(1)TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に適切に対応することができる。	
		3週	Unit1 ～ Unit6			(2)教科書や語彙集にある予定、数量を訪ねる、命令・依頼、広告宣伝、時間を尋ねる、場所を尋ねる、などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。	
		4週	Unit1 ～ Unit6			(2)教科書や語彙集にある予定、数量を訪ねる、命令・依頼、広告宣伝、時間を尋ねる、場所を尋ねる、などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。	
		5週	Unit1 ～ Unit6			(2)教科書や語彙集にある予定、数量を訪ねる、命令・依頼、広告宣伝、時間を尋ねる、場所を尋ねる、などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。	
		6週	Unit1 ～ Unit6			(2)教科書や語彙集にある予定、数量を訪ねる、命令・依頼、広告宣伝、時間を尋ねる、場所を尋ねる、などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。	
		7週	Unit1 ～ Unit6			(2)教科書や語彙集にある予定、数量を訪ねる、命令・依頼、広告宣伝、時間を尋ねる、場所を尋ねる、などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。	
	8週	中間テスト					
	4thQ	9週	Unit7 ～ Unit12			(1)引き続きTOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に適切に対応することができる。	
		10週	Unit7 ～ Unit12			(2)教科書や語彙集にある確認、留守電、アドバイス、誘い、申し出、講演者紹介などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。	
		11週	Unit7 ～ Unit12			(2)教科書や語彙集にある確認、留守電、アドバイス、誘い、申し出、講演者紹介などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。	
12週		Unit7 ～ Unit12			(2)教科書や語彙集にある確認、留守電、アドバイス、誘い、申し出、講演者紹介などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。		

		13週	Unit7 ~ Unit12	(2)教科書や語彙集にある確認、留守電、アドバイス、誘い、申し出、講演者紹介などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。
		14週	Unit7 ~ Unit12	(2)教科書や語彙集にある確認、留守電、アドバイス、誘い、申し出、講演者紹介などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。
		15週	Unit7 ~ Unit12	(2)教科書や語彙集にある確認、留守電、アドバイス、誘い、申し出、講演者紹介などのコンテキストで用いられる語彙・構文・決まり文句の60%以上を記憶しほぼ正しく運用できる。
		16週	期末テスト	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	60	0	0	0	20	10	10	100
基礎的能力	60	0	0	0	20	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	中国語		
科目基礎情報								
科目番号	0045			科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教科（平成25年度以前入学生）			対象学年	5			
開設期	後期			週時間数	2			
教科書/教材	中国語 初めの一步(白水社)/							
担当教員	鄭 涛							
到達目標								
1.中国の文化と生活に関する基礎的な知識を理解し、説明できる。 2.中国語の発音と基本な文法を理解し、説明できる。 3.中国語の基礎的な日常会話ができる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	中国語の社会事情、文化、生活に関することについて興味を持ち、理解できる。			中国の社会事情、文化、生活に関することについてある程度理解できる。		中国の社会事情、文化、生活に関することについて理解できない。		
到達目標2	発音記号に従って、中国語を正しく発音できる。			発音記号に従って、中国語の発音ができる。		発音記号に従って、中国語を発音できない。		
到達目標3	簡単な日常会話が流暢にできる。			簡単な日常会話ができる。		簡単な日常会話ができない。		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	中国の社会事情、生活・文化に関する基礎的な知識を理解するとともに、中国語の発音と表現に関する基礎知識、及び基礎的な会話を練習する。							
授業の進め方・方法	授業は会話に関する学習と練習を基本とする。							
注意点	外国語の勉強は話すことが重要なので、授業中、積極的な態度で声を出すこと。							
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		シラバスによって、到達目標・評価割合・達成度基準などを理解する。			
		2週	オリエンテーション		中国の社会事情、文化・生活、中国語の基本に関することを理解する。			
		3週	中国語の基礎：発音		発音記号に従って、中国語の発音ができる。			
		4週	中国語の基礎：発音		発音記号に従って、中国語の発音ができる。			
		5週	中国語の会話入門		簡単な日常会話ができる。			
		6週	中国語の会話入門		簡単な日常会話ができる。			
		7週	会話の練習と小テスト		簡単な日常会話ができる。			
		8週	会話の練習と小テスト		簡単な日常会話ができる。			
	4thQ	9週	会話の練習と小テスト		簡単な日常会話ができる。			
		10週	会話の練習と小テスト		簡単な日常会話ができる。			
		11週	後期中間試験					
		12週	会話と小テスト		簡単な日常会話ができる。			
		13週	会話と小テスト		簡単な日常会話ができる。			
		14週	会話と小テスト		簡単な日常会話ができる。			
		15週	会話と小テスト		簡単な日常会話ができる。			
		16週	後期期末試験					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	20	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0